

# 大学における研究・学習と 情報源

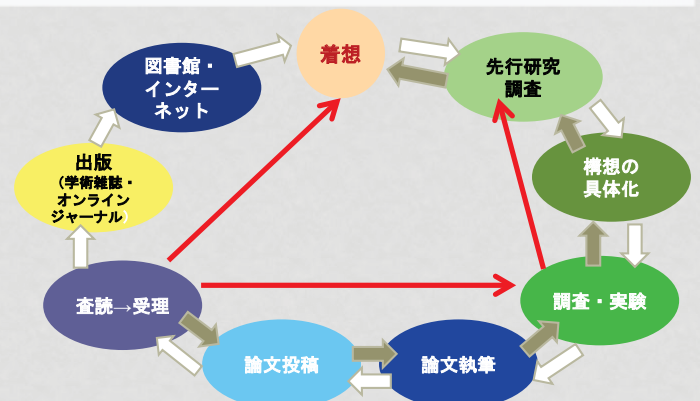
2013年1月21日 情報探索入門  
附属図書館研究開発室 北村由美

## 本日の内容

- 学術情報のサイクルと評価
- レポート執筆の注意点
- 論文の読解から執筆まで
- 引用に関する注意点

## 学術情報のサイクルと 評価

## 学術情報のライフサイクル



## 論文の評価

- 短期的評価
  - 査読制度
    - 学術雑誌を発行している機関や学会から複数の専門家に評価を依頼し (ピア・レビュー)、一定の基準を満たした論文を採用する制度
- 長期的評価
  - 引用
    - 被引用件数が論文内容の評価を反映していることに注目

## ガーフィールド博士の発見

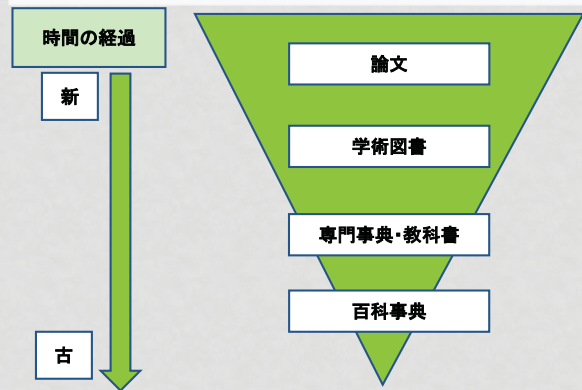
- Eugene Garfield (1925-)
- すべての論文は、それ以前に書かれた別の論文を引用・参照していることから、引用索引を作り、論文間の関係性を明らかにすることで、科学の構造化を実現。
- 全米の州裁判所・連邦裁判所の判例の索引、Shepard's Citation より着想を得て、1961年にScience Citation Indexを出版
- 引用頻度が高い文献の重要性→コア・ジャーナルの重要性を実証
- CITATION INDEXES FOR SCIENCE - NEW DIMENSION IN DOCUMENTATION THROUGH ASSOCIATION OF IDEAS SCIENCE. 1955; 122 (3159): 108-111



## 論文「評価」の指標・基準

- 論文掲載誌の重要性
  - インパクト・ファクター：JCR
  - 発行母体
- 論文の重要性
  - 被引用頻度

「知識」は一定の方向へ収まっていく  
（「新説」による急変化もあるが）



## レポート執筆の手順

DVD鑑賞：情報の達人 第3巻  
「レポート・論文を書こう！誰にでも書ける10のステップ」(2007)（附属図書館、人理・総人図書館に所蔵）

## レポート作成の10のステップ

- (1) テーマの選択
- (2) 事前調査
- (3) 仮アウトライン作成
- (4) 関連文献の調査
- (5) 文献の入手
- (6) 文献の読解と整理
- (7) 最終アウトライン作成
- (8) 執筆・校正
- (9) 出典の表示→演習
- (10) 仕上げ

## 「(6)文献の読解と整理」のポイント

- 目的と対象の適切性
  - 文献が書かれた目的は？
  - 扱っている対象は？
- データの信憑性
  - データ・文献は適切か？情報源は確かか？
  - データ・文献の分析の仕方は適切か？
  - 事実と意見が区別されているか？
- 論旨・論理の一貫性？
- 法・倫理の問題

## 「(8)執筆・校正」のポイント

- 文体は書き言葉（である調）
- 表現はわかりやすく
- 一般用語と専門用語を区別
  - 専門用語は定義を示しておく（参考資料の活用）
- 同一概念は同一用語で

## 「論文」の読解から執筆まで

DVDからさらに進んで...

## レポート・論文・調査報告書に必要な要素

- (1) 問いを立てる
- (2) 問いに何らかの答えを出す
- (3) (2)の根拠を示す

### 文章の構成として

- ・序論 (1)
- ・本論 (3)
- ・結論 (2)

- ★「事実」と「意見」を区別する
- 「自分の意見」と「他人の意見」を区別する

## 論文の型・構造：大きくは3つのパート

「〇〇〇に関する研究」  
氏名  
【要旨】〇〇〇〇〇.....

書誌事項  
(カタログ情報)

・はじめに  
・研究関心  
・研究手法  
・結果  
・考察  
・おわりに

序論
本論
結論

本文  
(本体)

【注・引用文献】  
1)  
2)  
...

根拠・追加情報

## 序論（典型的な構成例）

- ・ 研究関心・研究背景
- ・ 研究課題の設定 「問い」「仮説」
- ・ 先行研究の流れ
- ・ 仮説とその「解き方」の大まかな方針・戦略  
→ 研究手法の選択（実験・文献調査・フィールドワークなど）
- ・ この後の本文の概要

## 根拠・追加情報

- ・ 引用文献：文章の一部につき「引用」を行った文献
- ・ 参照（参考）文献：必ずしも引用を行っていないが、根拠となる記述などを記した文献
  - ・ これらは厳密には区別されないことがある
  - ・ 引用・参照文献をまとめて「参考文献」と呼ぶ場合も
- ・ 注：本文に入れるほどではないが補足的な記述を行う
- ・ 付録：「アンケートの調査票」など

## 引用に関する注意点

## なぜ「引用（参照）」が大切なのか

- これまでの研究史の中に自分の研究を位置づける
- 自分の発言の根拠を明記する
  - 今までの見解に反論する場合でも、「反論対象」の文献を明記する
- 自分の意見と他人の意見とを区別する
  - そうしないと「盗作」と見なされる！
- 研究方法についても、引用・参照が求められる場合あり

## 「引用」のルールやポイント

- 引用部分の明確化、被引用文献（出典）の明示
  - 「」や“”でくくる
  - 長い文章の引用は「段下げ」（インデント）

す。そもそもガバナンスとは、日本では以下のように理解されています<sup>20)</sup>。

公共サービスの提供主体が、政府・自治体だけでなく、企業やNPOなどの民間・市民セクターに広がっていることを背景に、政府活動の社会的次元に注目したコンセプト。「統治」「共治」などと訳すが、企業や国際社会も含め、管理運営システム全般をさすことも多い。

ここでは、グローバリゼーションなどを背景とし、従来の「ガバメント」の枠を超えた「ガバナンス」の

出典：古賀崇. レコードキーピングをめぐる一考察：マケミッシュ、クックの論考をもとに。レコード・マネジメント. 2007, no. 53, p. 89-107.

## 本文との関連づけ(1)： 引用・参照順方式

筆者の前稿と重なる点も多いが<sup>2)</sup> ③、まずFDLPの概要と現状をまとめてみたい。

FDLPは連邦議会の傘下にある政府印刷局(Government Printing Office: GPO)が連邦政

### 参考文献

3) 古賀崇. “アメリカの公共図書館における政府情報アクセス：電子政府の進展の中での現状と課題”. 変革の時代の公共図書館：そのあり方と展望. 日本図書館情報学会研究委員会編. 勉誠出版, 2008, p. 175-181, (シリーズ図書館情報学のフロンティア, No. 8).

出典：古賀崇. 米国の公共図書館における政府情報・電子政府関連サービスの実情：公共図書館の価値への期待と政府業務の縮小とのはざま. 現代の図書館. 2009, vol. 47, no. 3, p. 180-187.

## 本文との関連づけ(2)： 著者名・発行年方式

さて、市民社会形成に関わる新中間層以外の担い手を構想する議論もある。オルタナティブな発展論が現地の知識人や宗教者、NGO関係者から出され、先進国の研究者も共感を示した(西川編,2001; 西川・野田編,2001; 駒井,2001)。社会開発論は国際援助機関から

### 参考文献

西井涼子,2001,『死をめぐる実践宗教』世界思想社。

西川潤編,2001,『アジアの内発的発展』藤原書店。

西川潤・野田真理編,2001,『仏教・開発・NGO—タイ開発僧に学ぶ共生の智慧』新評論。

日本村落社会学会編,2004,『東アジア農村の兼業化—その持続性への展望』農文協。

出典：櫻井義秀. 分野別研究動向(東南アジア)グローバリゼーションと地域社会変動. 社会学評論. 2008, vol. 57, no. 1, p. 204-217.